

第2号様式(第3条関係)

身体障害者診断書・意見書(呼吸器機能障害用)			
総括表			
氏 名	年 月 日生	男 女	
住 所			
① 障害名(部位を明記)			
② 原因となった 疾病・外傷名		外傷・自然災害・疾病 先天性・その他( )	
③ 疾病・外傷発生年月日		年 月 日	
④ 参考となる経過・現症(画像診断及び検査所見を含む。)			
		障害固定又は障害確定(推定) 年 月 日	
⑤ 総合所見(再認定の項目も記入)			
[将来再認定 要(軽度化・重度化)・不要] [再認定の時期 1年後・3年後・5年後]			
⑥ その他参考となる合併症状			
上記のとおり診断する。併せて以下の意見を付す。			
年 月 日			
病院又は診療所の名称		電話 ( )	
所 在 地			
診 療 担 当 科 名		科 医師氏名 印	
身体障害者福祉法第15条第3項の意見			
障害の程度は、身体障害者福祉法別表に掲げる障害に  ・該当する。 ・該当しない。		障害程度等級についての参考意見  級相当	
注 障害区分や等級決定のため、東京都心身障害者福祉センターから改めて問い合わせる場合があります。			

(日本産業規格A列4番)

第10号様式(第3条関係)

呼吸器の機能障害の状況及び所見

(該当するものを○で囲むこと。)

1 身体計測

身長                      cm                      体重                      kg

2 活動能力の程度

ア 激しい運動をしたときだけ息切れがある。

イ 平坦な道を早足で歩く、又は緩やかな上り坂を歩くときに息切れがある。

ウ 息切れがあるので、同年代の人より平坦な道を歩くのが遅い、又は平坦な道を自分のペースで歩いているとき、息切れのために立ち止まることがある。

エ 平坦な道を約100m、又は数分歩くと息切れのために立ち止まる。

オ 息切れがひどく家から出られない、又は衣服の着替えをするときにも息切れがある。

3 胸部エックス線写真所見(    年    月    日)

ア 胸膜癒着                      (無・軽度・中等度・高度)

イ 気腫化                      (無・軽度・中等度・高度)

ウ 線維化                      (無・軽度・中等度・高度)

エ 不透明肺                      (無・軽度・中等度・高度)

オ 胸郭変形                      (無・軽度・中等度・高度)

カ 心・縦隔の変形                      (無・軽度・中等度・高度)



4 換気機能(    年    月    日)

ア 予測肺活量    □・□ □L (実測肺活量    □・□ □L)

イ 1秒量    □・□ □L (実測努力肺活量    □・□ □L)

ウ 予測肺活量1秒率 □□・□% (=  $\frac{イ}{ア} \times 100$ )

(注1)アについては、下記の予測式を使用して算出すること。

(注2)81歳以上の者又は肺気量測定法の実施に障害のある者は指数の測定を省略できること。

肺活量予測式(L)

男性  $0.045 \times \text{身長(cm)} - 0.023 \times \text{年齢(歳)} - 2.258$

女性  $0.032 \times \text{身長(cm)} - 0.018 \times \text{年齢(歳)} - 1.178$

(予測式の適応年齢は男性18—91歳、女性18—95歳であり、適応年齢範囲外の症例には使用しないこと。)

5 動脈血ガス( 年 月 日)

ア O<sub>2</sub> 分圧:

① 室内気での実測値 □ □ □ \* □ Torr

② 酸素吸入中での実測値 □ □ □ \* □ Torr

(室内気での推定値 □ □ □ \* □ Torr)

(吸入気の酸素濃度: %、酸素投与の方法 )

イ CO<sub>2</sub>分圧: □ □ □ \* □ Torr

ウ pH : □ \* □ □

エ 採血より分析までに時間を要した場合 □ □ 時間 □ □ 分

オ 耳朶<sup>だ</sup>血を用いた場合: [ ]

(注)動脈血の採血及び分析は、安静恒常状態に次に掲げる条件下で行うこと。

- ・ 採血時の体位は背臥<sup>が</sup>位であること。
- ・ 採血時の吸入ガスは室内気呼吸中のものであること。

なお、O<sub>2</sub>分圧については、本人の状況により酸素吸入中の数値しか得られない場合、室内気での推定値、吸入気の酸素濃度及び酸素投与の方法を記入すること。

- ・ 採血後、分析を5分～10分以内に速やかに行うこと。

6 その他の臨床所見